

■テーマ 働きやすい環境づくり

■テーマ設定の内部背景

- ・生産年齢人口が減少
- ・15歳～24歳までの若者が就学や就職を機に転出
- ・恵那・中津川地域の高等学校の市内就職率は20%台
- ・労働力不足
- ・市内事業所が減少傾向
- ・全産業において労働生産性を上げる余地がある
- ・地域経済の状況は域外への流出が大きい
- ・調達先が市内企業ではない（見つからない）場合が多い
- ・近隣に大学がなく産学連携が進んでいない
- ・物流上の道路利便性は比較的高い

■現状と課題

- ・域外への支出が大きく、経済が十分に循環していない
- ・高付加価値のオリジナル製品の開発が少ない
- ・新事業の相談先がない
- ・産官学連携が少ない
- ・販路拡大が必要
- ・住環境が十分でない
- ・時代に合わせたビジネスモデルへの対応
- ・全産業において労働生産性を上げる余地あり
- ・域外への支出が大きく、経済が十分に循環していない
- ・2次産業のみ移輸入収支プラス、3次産業は大きくマイナス
- ・業務効率化・省力化が必要
- ・廃業が多い、後継者不足
- ・保有する技術、ノウハウ等の強み
- ・事業用地がない
- ・他市・他県からの採用しなければいけない状況
- ・大手企業に流れてしまう
- ・大卒が働く場所が少ない
- ・従業員の高齢化による技術の承継
- ・若手を教育する人材の育成
- ・採用に関する大学などとの連携不足
- ・自社の魅力発信・情報発信の仕方を改善

■解決の方向性

- ものづくり産業の振興
 - ・地域資源の活用とブランド化
 - ・知恵とネットワークを生かしたものづくり
 - ・市場開拓・販路拡大
- 集客・交流産業の振興
 - ・集客できる拠点の整備
- 経営基盤の強化
 - ・経営支援
 - ・経営基盤の強化
- 産業基盤の強化
 - ・産業基盤の強化
 - ・企業立地の促進
- 人材の確保・育成
 - ・人材の確保
 - ・市民が企業を知る機会の創出
 - ・潜在的人材の発掘
 - ・企業の魅力発信
 - ・人材育成
 - ・定住に向けた環境整備
 - ・誰もがチャレンジできる体制を整備

■あるべき姿

「企業の強みを磨き、社員が輝く、魅力溢れる産業」

■恵那市の工業

- 概要
 - ・名古屋へのアクセス1時間
 - ・約2,800事業所、約23,000人が働く
 - ・事業所数では、卸売業・小売業が多い
 - ・従業員数では、製造業が多い
 - ・5箇所の工業団地があり工場の集積進む
 - ・基幹産業は、パルプ・紙・紙製品製造業、窯業・土石製品製造業、プラスチック製品製造業など
- 強み
 - ・基幹産業は、生産額・付加価値額・雇用者所得で全国平均を上回る
 - ・高付加価値の商品・サービス、技術力
 - ・プラスチック、輸送用機械製造業では従業員数が伸びている（集積進む）
 - ・素材産業が立地
- 弱み
 - ・労働生産性が高くない

■外部背景

- ・経済のグローバル化
- ・生産工場の海外立地が進む
- ・ITの発達によるビジネスモデルの変化
- ・少子高齢化の進展による労働力不足
- ・若者の大手志向
- ・現場離れ
- ・大手就職支援サイト利用への偏り
- ・都市部の賃金の高さ
- ・近隣に大学が少ない
- ・大学卒の働く場所がない
- ・研究所、試験場が近くにない

■アクションプラン（具体的な施策）

別紙

【施策展開のイメージ】

